

2014 年度 センター試験 本試験 倫理

第 1 問 フェアトレードから見る諸問題

出題範囲	ヒューマニズム, 青年期, ロールズ, 社会主義, 環境倫理, 異文化理解
難易度	★★☆☆☆
所要時間	15 分
傾向と対策	貧困問題や環境問題といった頻出の話題がフェアトレードを通して出題された。グラフや文章の読み取り問題はしっかりと読み解けば問題はないだろう。問 7 の現代における環境問題に関する設問は、単語だけでなくそれぞれの関係性を覚えておく必要がある。

問 1 1 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 正 シュヴァイツァーは、自他関係なくすべての生命を尊重する「生命への畏敬」の理念にもとづいて、苦しむ人々への支援に生涯を費やし、アフリカでは医療支援やキリスト教の布教を行った。彼はその功績が評価されて、1952 年にノーベル平和賞を受賞している。
- ② 正 国境なき医師団は、世界各地の紛争地域や災害の被災地において、すべての人が医療を受ける権利をもち、医療は国境を越えて必要であるという信念にもとづいて医療活動を行う国際 NGO である。
- ③ 誤 かたやません 片山潜は明治～昭和期のキリスト教社会主義者である。彼は労働運動において活躍し、日本で最初の労働組合を組織したほか、日本共産党の結成を指導した。よって、彼の活動は「仏教の慈悲の精神」にもとづいてはいない。
- ④ 正 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、難民に対する支援を行う国連の機関である。難民条約上の難民や国内避難民の保護をその対象としている。
- ⑤ 正 マザー・テレサは修道女としてインドで弱者や貧しい人々への支援活動を行った人物。その功績によって 1979 年にノーベル平和賞を受賞している。

問 2 2 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

文章とグラフの読み取り問題。文章中の条件をしっかりと把握したうえでグラフを読み解くことが肝要である。

- ① 正 人数の割合を示したグラフを参照すると、A と B から選択した場合、寄付金額が一番低く、相手の顔と名前がわかる A のプランを選択した人数は B を選択した人数よりも多いことがわかる。また、納得度の平均点数を示したグラフを参照すると、A と B から選択した場合、B を選択した人よりも A を選択した人のほう

が納得度が低いことが読み取れる。

- ② 正 一人あたりに換算した寄付金額が最も高いプランは一人あたり 35,000 円を寄付する C プランであるが、問題文の注釈を読むと、「A～C の選択肢を示された参加者で、C を選択した人はいなかった」とある。また、納得度の平均点数を示したグラフを参照すると、人数の割合を示したグラフと同様、B を選択した人のほうが A を選択した人よりも数値が高くなっていることがわかる。
- ③ 誤 A～C の 3 つの選択肢から選んだ場合、選択肢 A と B の中から選ぶときとは逆に、B のプランを選択する人数の割合が A のプランを選択する人数の割合よりも高くなるが、納得度の平均点数の割合はどちらの場合においても B を選択した人のほうが A を選択した人よりも高くなっている。
- ④ 正 納得度の平均点数を示したグラフを参照すると、A と B から選択したうち、B を選択した人のほうが A を選択した人よりも納得度が高くなっている。また、これは選択肢が A～C になった場合も同様である。

問 3 3 正解は⑤

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ア 問題文中で、自分の価値がわからなくなったと述べられていることから、エリクソンが述べた**自我同一性の拡散**が該当する。エリクソンは、青年期において子どもから大人に成長する途中で、自分のアイデンティティがわからなくなり、不安や空虚感に陥ることがあるとした。よって、答えは C。
- イ 問題文中で、登場人物が自身の将来を見据え、考えて行動していることから、**オルポート**が提唱した成熟した人格が該当すると考えられる。オルポートは、成熟した人格の特徴として情緒的安定や自己受容、人生を統一する人生哲学を挙げている。よって、答えは A。
- ウ 問題文中で、登場人物の欲求は収入と安定した身分を求めている段階から、働きぶりを周囲の人間から認められたいと思う段階へと変化している。このことから、**マズロー**の欲求の階層構造に該当することがわかる。マズローは、欲求をおもに 5 つの階層に分類し、人間の欲求は呼吸や睡眠といった生理的欲求から、自己実現の欲求といった高次の欲求に変化していくとした。よって、答えは B。
- 以上より、アが C、イが A、ウが B となる⑤が正解である。

問 4 4 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

センは文章中で、

- ・多国籍企業は民主国家より独裁国家での活動を好む。その行動は、その国の公正な発展を妨げる可能性がある。
- ・多国籍企業は貧しい人々の窮状を改善するより、経営者や特権的労働者の安全や便益を優先させる。

ことを指摘している。それを確認したうえで選択肢を一つずつ吟味する。

- ① 誤 センの文章では「関税障壁の撤廃など、保護主義に陥らない取組」については言及されていない。

- ② 正 文章でも選択肢でも「公正な発展」について述べられている。また、独裁主義が公正な発展を妨げることが明記されている。
- ③ 誤 文章の内容と一致しない。文章では、多国籍企業にとっては民主的な国家より、独裁国家の方が都合がよいと述べられている。
- ④ 誤 文章の内容と一致しない。センは文章中で、多国籍企業は貧しい人々の窮状を改善してはいないと指摘している。

問 5 5 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 誤 アリストテレスの思想。彼は正義をポリスの法を守るという**全体的正義**と、人々の間に公正をもたらす**部分的正義**とに大別し、さらに、部分的正義を名誉や報酬を各人の能力や働きに比例して与える**配分的正義**と、裁判や取引などで各人の利害・得失が均等になるように調整する**調整的正義**とに分けた。
- ② 誤 ベンサム思想。彼は、快楽は数量的に計算することが可能だとし、個人主義の立場から各人は等しく1人として数えられ、誰もそれ以上に数えられてはならないとした。
- ③ 正 功利主義を批判した**ロールズ**の思想。彼は著書『正義論』の中で、すべての人々は、他者の自由と両立できる限り、できるだけ広い範囲の基本的自由を平等にもつと主張した。また、自由な競争によって生じる不平等は、それが公正な機会の均等を確保したうえで生じたものであり、また最も不遇な人々の立場の改善につながる場合に限り認められると説いた。
- ④ 誤 **ロック**の思想。彼は人が身体や財産などに対してもっている固有の権利、すなわち**所有権**を自然権としてみなし、人々が国家と社会契約を結んで、自然権を国家に信託することで自然権を守ることを説いた。また、彼は自然法を信託された国家が人民の自然権を侵害するならば、人民はこれに抵抗してよいとする**抵抗権**を提唱した。

問 6 6 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- a **サン＝シモン**はフランスの空想的社会主義者。**コント**はフランスの哲学者で、社会学の祖とされる人物。よって、サン＝シモンが適当である。
- b 社会主義は格差などの社会問題を生み出す資本主義の欠陥や矛盾を是正しようとして生まれた思想・運動である。よって、**資本主義**が適当。なお、絶対主義は君主に権力が集中した体制のことである。
- c イギリスで**フェビアン協会**、ドイツでは**ベルンシュタイン**を中心に進められた取り組みについて選べばよい。マルクス主義では社会主義は労働者の暴力革命によって実現されると主張されたが、議会主義の進展に伴い民主主義の過程で社会主義の実現を図ることを主張したのが彼らである。よって、**議会制民主主義**が適当で

ある。

以上より、a がサン＝シモン、b が資本主義、c が議会制民主主義となる①が正解である。

問 7 7 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

ア 正 第 3 回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）ともよばれ、会議内では二酸化炭素など 6 種類を含む温室効果ガスの削減を先進国にのみ課す京都議定書が採択された。

イ 誤 カーソンの著書は『奪われし未来』ではなく『沈黙の春』。彼女は其中で農薬の DDT や殺虫剤の大量使用による生態系の破壊に警鐘を鳴らした。『奪われし未来』はアメリカのシーア・コルボーンの著書で、環境ホルモンの危険性を示唆した。

ウ 誤 「宇宙船地球号という考え方によって、」という部分が誤り。宇宙船地球号とは 1960 年代にアメリカの経済学者のボールディングなどによって唱えられた言葉で、地球を 1 つの宇宙船に見立て、人間が有限で循環する生態系の中で生きていることを表している。地球サミットとはリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議のことであり、持続可能な開発の理念のもと、リオ宣言やアジェンダ 21 などが採択された。

以上より、アが正、イが誤、ウが誤となる④が正解である。

問 8 8 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

① 誤 レヴィンのいう境界人（マージナル・マン）とは、自分の生き方を模索・試行し、大人への準備をする存在である青年のことを指す。よって、問題文中の説明は誤りである。

② 誤 シュプラングは、人生において追求する価値によって人間の性格を 6 類型に分けた。人間を内向型と外向型の 2 つに分類したのはユングである。

③ 誤 防衛機制は葛藤や欲求不満が原因となって起こる心の反応である。抑圧や退行は防衛機制の一種であり、防衛機制の原因ではない。

④ 正 ヤマアラシのジレンマは哲学者ショーペンハウアー^{ぐうわ}の寓話をフロイトが引用して生まれた言葉である。ヤマアラシ同士が近づくと互いに傷つけ、離れると互いを温めることができないことからそうよばれた。人間関係において適度な心理的距離が必要だということを指す場合もある。

問 9 9 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

① 誤 自分が慣れ親しんだ文化とは異なった文化に出会ったときに生じる違和感や衝撃は、カルチャーショック

クとよばれる。**カウンター・カルチャー**とは、既存の文化や体制を否定・敵対する若者文化であり、1960年代のアメリカで盛り上がりを見せた。

- ② 誤 文化統合において、少数派の文化には一定の配慮が必要であり、多数派の文化の中に同化・吸収させるといった同化政策は尊重されるものではない。また、**ノーマライゼーション**とは、高齢者や障害者が特別に区別されることなく、健常者と一緒に助け合いながら社会で生活していくことを目指す理念である。
- ③ 誤 自民族と他の民族の文化や価値観の違いを積極的に認め、互いに尊重し合おうとする考え方は**文化相対主義**である。また、**パターンリズム**とは、強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益になるようにと、本人の意志に反して行動に介入・干渉することを指す。
- ④ 正 **ステレオタイプ**はもともと印刷用語であったが、アメリカのジャーナリストである**リップマン**によって初めて「パターン化したイメージ」という意味で用いられた。彼は、ステレオタイプには大量の情報を処理する際の思考の節約というプラスの側面と、多数派の先入観や偏見に依存しやすいとするマイナスの側面があると指摘した。

問 10 10 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 Aは、本文中において環境を保護するために市場とは別のしくみが必要だとは主張していない。また、Bは貿易を通じた支援によって、生産者の経済的自立を促進するべきだとしており、問題文中にある生産者の暮らしにも配慮した持続的な援助ができるように寄付するしくみが必要だとは言及していない。
- ② 誤 Bは、現在の価格競争によって生産者に適当な価格が支払われないことが公正だとはいえないとしているが、公正という点においてフェアトレードのほうが寄付よりも優れているとは主張していない。また、Aは寄付が経済的自立につながるとは言及していない。
- ③ 正 前半のAについての記述は、Bの発言に対し、貧困の援助のための寄付や生産過程における環境破壊を憂慮する一方で、市場のルールを守ることが貿易の公正さの条件だともしている発言が本文中にみられるため正しい。また、後半部分のBについての記述も本文全体を通してのBの主張に合致する。
- ④ 誤 Bの主張についての記述は正しいが、Aは本文において、途上国における貧困問題や環境問題の解決策として、市場経済の発展による社会全体の富の増大が必要だとは述べていない。

(有田瑞生, 小倉聡史)

2014 年度 センター試験 本試験 倫理

第 2 問 欲望に関する先哲の教え

出題範囲	アリストテレス, ストア派, イスラーム教, 荘子, キリスト教, ブッダ
難易度	★★★☆☆
所要時間	12 分
傾向と対策	細かい知識や理解を求められる問題が多くみられた。特に, 問 7 は八正道 ^{はっしょうどう} の内容を記憶していなければ厳しいだろう。また, 問 4 では荘子の思想 ^{そうし} について出題されたが, 荘子と老子 ^{らうし} の思想の違いはしっかりと覚えよう。問 8 では文章を読解するだけでなく, リード文に明記されていたように, 大乘仏教にかかわる知識を求められた。このように, 問題文を読み込むことも重要である。

問 1 11 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 正 アリストテレスの知性的徳と習性的徳についての文章である。アリストテレスは人間が行動するうえで過度や不足の両極端を避ける中庸^{ちゅうよう}を提唱し, 欲望を理性に従わせる必要があると主張した。また, 彼は学習によって備わるとした知性的徳を知恵と思慮の 2 つに分け, 思慮によって中庸を選び取るとし, その行動を日常生活において繰り返すことで習性的徳が身につくとした。
- ② 誤 アリストテレスは観想(テオリア)的生活を送ることが最大の幸福だとしたが, それによって魂は自らの欲望的部分を制御できるとはしていない。彼は, 欲望を制御するにはよい性格の形成が必要だとし, そのためには教育が欠かせないと主張した。なお, アイデアはプラトンの用語である。
- ③ 誤 アリストテレスは過度や不足を避ける中庸が人間にとって最適な状態だと述べている。さらに, 彼は最高善の 1 つとして快楽を掲げており, 過度でない享樂的生活を幸福としているため, 問題文は不適である。魂の平安(アタラクシア)を理想としたのはエピクロスである。
- ④ 誤 アリストテレスの中庸とは, 過度や不足の両極端を避け, 適切にその間の行動をとる状態であるため, 禁欲的な生活を通じて欲望を排除し, 魂を浄化する必要があるとする問題文は不適である。禁欲的な生活によって魂を浄化しようとしたのはストア派である。

問 2 12 正解は⑦

難易度 ★☆☆☆☆

解説

- a 禁欲的な生活で情念を抑制した状態こそが幸福であるとしたストア派の開祖はゼノンである。彼は理想の状態を情念に支配されないアパテイアとした。なお, セネカはローマの皇帝ネロの教育係を担っていたストア

派の哲学者、キケロはローマの政治家で、独裁官であったカエサルの政敵だった人物である。

- b ストア派が唱えた社会のあり方は**世界市民主義**（コスモポリタニズム）である。世界市民主義とは、どんな民族も平等に**ロゴス**（理性）を有していることから、すべての人々は同じ共同体に属しているとする考え方である。なお、**社会有機体説**とは、社会を生物的有機体としてとらえ、諸個人の活動や関係が社会をつくり出すとする思想で、19世紀に**コント**や**スペンサー**によって唱えられた。また、配分的正義は**アリストテレス**の思想で、彼は名誉や報酬を各人の能力や働きに応じて配分するべきだとした。

以上より、a が**ゼノン**、b が**世界市民主義**となる⑦が正解である。

問 3 13 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 **クルアーン**はアッラーによってムハンマドに啓示された神の教えをアラビア語でまとめたものである。また、ムハンマドは神の啓示を受けた最後で最大の預言者とされている。以上より、問題文は不適である。
- ② 正 アッラーの定めた戒律はクルアーンに記載されており、教義や信仰生活をはじめとして、結婚、遺産相続、子どものしつけなど日常生活の規則が記されている。
- ③ 正 イスラーム教では神アッラーは唯一絶対であり、キリスト教における、創造主としての父なる神と、贖罪者キリストとして世に現れた子なる神と、神の愛や意思を伝える聖霊なる神は唯一の神が3つの姿となって現れたものであるとする**三位一体説**を批判している。
- ④ 正 イスラームの宗教実務である**五行**の1つである。**巡礼**（ハッジ）とはメッカのカーバ神殿と周辺の聖所への大巡礼のことで、一生に1度、ヒジュラ歴12月に行う。また、五行は巡礼以外に**信仰告白**（シャハーダ）、**礼拝**（サラート）、**喜捨**（ザカート）、**断食**（ラマダン）を含む。

問 4 14 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 **心齋坐忘**の説明が不適。心齋坐忘とは、心を空虚にし、自己の心身を忘れ去って、無為自然の道と一体となる修養法である。また、問題文中の**中庸**は**孔子**の思想であり、過不足のない適度な態度を常に保つことで、中庸の徳は完全無欠なものになるとした。
- ② 誤 **小国寡民**を唱えたのは**老子**である。小国寡民とは、小さな農村で自給自足の生活を送り、質素な暮らしに満足すれば、人々は隣国と往来することも争うこともなく人生を平和に全うできるという、老子の理想社会の在り方である。
- ③ 正 莊子は老子が提唱した無為自然の道という思想を受け継ぎ、ありのままの実在の世界は、是非、善悪、生死などの対立・差別を超えた、本来等しいものであるとする**万物斉同**を唱えた。また、そのような人為がない無為自然の世界に何の思い煩いもなく安らかに生きる**逍遥遊**を理想の境地とした。

- ④ 誤 浩然の気は儒家の孟子の思想であり、自己の道徳的な人格を確信し、道徳を実践しようとする力強く広大な気分を指す。また、浩然の気は義を繰り返して行ううちにおのずと養われるとした。

問 5 15 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 法家の韓非子の思想。彼は、人間を利己的で常に利害を打算するものとみなし、法律と刑罰にもとづいて国家を定める法治主義を提唱した。また、荀子は人間の本性は悪であるとする性悪説を主張し、社会規範である礼によって治安を維持するべきだとする礼治主義を説いた。
- ② 正 イスラーム教では、アッラーの前ではムスリムはすべて平等であるとされており、孤児や貧者を救う同胞愛、社会的な正義が唱えられ、部族の対立を超えたイスラーム国家が建国された。
- ③ 誤 四苦ではなく八苦の1つである愛別離苦についての説明。四苦は生・老・病・死の4つである。また、八苦は四苦に加えて、愛別離苦以外に、怨んだり憎んだりするものと出会う苦しみである怨憎会苦、ほしいものが得られない苦しみである求不得苦、そして、人間の身体・精神作用がもたらす苦しみである五蘊盛苦の3つの苦しみを含む。
- ④ 誤 エンペドクレスの思想ではなくソクラテスの思想。エンペドクレスは、万物を生み出す根源として土・火・水・風の4元素を挙げ、それらが愛によって結合して万物を生成し、憎しみによって分離、消滅すると説いた。

問 6 16 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

- ア 正 パウロは原始キリスト教で最も重要な宣教師であり、古代ギリシア・ローマ世界にキリスト教を伝道した。もとは熱心なパリサイ派のユダヤ教徒であったが、回心し、イエスの十字架上の死は贖罪であるとして、この神の愛への信仰によってのみ救いが得られると説いた。
- イ 誤 アウグスティヌスは、人間は自由意志を有しているが、原罪により善をなす自由を有しておらず、悪へと傾かざるを得ない自由しかもたないと主張し、神の無償の愛（アガペー）によってのみ救われるとした。
- ウ 誤 イエスは、人は他者を裁くことなく、神によってのみ裁かれるとし、また、神からの平等で無償の愛によって救われると説いた。

以上より、アが正、イが誤、ウが誤となる④が正解である。

問 7 17 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 ^{しょうご}正語とは、言葉で人を傷つけないことである。
- ② 誤 ^{しょうけん}正見とは、この世は絶えず移り変わり、人生もまた、はかなく虚しいものであるとする無常を認めることである。
- ③ 誤 ^{しょうしょうじん}正精進とは、至らないところを克服することである。
- ④ 正 ^{しょうじょう}正定についての正しい説明である。本問で挙げた以外にも、八正道には^{しょうし}正思、^{しょうごう}正業、^{しょうみょう}正命、^{しょうねん}正念などがある。

問 8 18 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 ^{ぼさつ しゅじょう}菩薩は衆生を導く働きを放棄し、自分の悟りの完成を目指して努力するべきという部分が不適。大乘仏教では、自らの成仏よりも衆生救済を優先させるあり方である^{りた}利他が説かれている。
- ② 正 菩薩とは、成仏するための修行者であるため、^{ぼんのう}煩惱を断とうとする。一方で、一切の衆生を救うために自らの成仏を捨ててまで衆生のために行動する慈悲あふれる存在であるとされている。
- ③ 誤 菩薩はすべての衆生の成仏のために行動するのであり、また、身近な衆生から徐々に^{ねはん}涅槃に導くよう努力するとは文章中にも記されていないため不適。
- ④ 誤 菩薩は衆生のために自身が成仏することを捨てる存在であるため不適。

問 9 19 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 本文中では、「欲望に囚われてしまうと、どれだけ満たしても欠乏感を抱くようになる」とは言及されていない。また、欲望への解決策として、他者と積極的に交流して相互理解を深め、社会全体の利益を模索すべきだとは記されていないので不適。
- ② 誤 自然の法則に調和した生き方が損なわれてしまうとは本文中で述べられていない。また、解決策として他者の理解を得るよう努める必要があるとは記されていないため不適。
- ③ 正 前半部分についての記述は、プラトンや荘子の主張に合致するため正しい。また、後半部分は本文中のキリスト教やブッダにおける思想に合致する。
- ④ 誤 人は禁欲を基本とし、他者とのかかわりもなるべく控えるような隠遁的生活を目指す必要があるとする内容が不適。本文では、さまざまな欲望をある程度満たす必要があるとしており、また、他者との関係をより深い次元で見いだすべきだとしている。

(有田瑞生, 飯田貴登)

2014 年度 センター試験 本試験 倫理

第3問 先人たちの自然のかかわり方

出題範囲	神仏習合，源信，芸術，国学，二宮尊徳，近世日本思想，南方熊楠
難易度	★★★☆☆
所要時間	13分
傾向と対策	古代から近世にかけての日本における信仰や思想にまつわる問題が出題された。問1の古代の日本における信仰は見落とされがちなので、しっかりと覚えよう。また、江戸時代における思想家たちについての問題も複数出題された。江戸時代には朱子学，国学，古学をはじめとするさまざまな思想が勃興したため、覚えるべき人物・思想は多数ある。人物と思想を有機的に結びつけて覚えるように心掛けよう。

問1 20 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

しんぶつしゅうごう
神仏習合についての問題。神仏習合とは、外来思想である仏教が日本に定着する過程で、日本固有の神への信仰と融合したものである。

- a 古代の日本では、神々は衆生と同じく神々の世界で苦しむ存在であり、それがたたりや災難を生み出す原因であるとされた。そんな神々を仏が救済することによってこれらの災難を取り除くことができることとされたため、しんぜん どきょう 神前読経が行われるようになった。また、はら 祓いは、豊穰と安穩を祈る儀式（祭祀）を妨げる行為である罪を償うため、物品を神に献上する儀礼を指す。
- b 平安時代、神は仏や菩薩が人々を救うために仮に世俗世界に姿を現した存在であるとするほんち すいじゃくせつ 本地垂迹説が生まれ、仏の仮の姿が神だとするごんげん 権現思想が広まった。また、ごりょう 御霊信仰とは、古代の日本において、不幸で悲惨な死を遂げた者はたたりをなす存在だと考えられ、死者の霊を鎮めることにより平穩を回復しようとした信仰のことである。

以上より、aが読経、bが権現思想となる③が正解である。

問2 21 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 平安中期の僧くうや 空也について述べた文章。空也はこのような社会事業を通じて、浄土信仰が民間に広まるきっかけをつくった。
- ② 誤 『日本往生極楽記』はにほんおうじょうごくらくき 慶滋保胤よししげのやすたねの書。慶滋保胤は平安中期に活躍した文人で、彼が浄土信仰にもとづいて編纂したこの書は、日本最古の往生伝とされている。

- ③ 誤 鎌倉中期の僧一遍^{いっぺん}について述べた文章。一遍は時宗の開祖であり、「遊行上人^{ゆぎょうしやうにん}」ともよばれた。
- ④ 正 源信^{げんしん}は天台宗の僧侶であり、「厭離穢土^{おんり えど ごんぐじやうど}、欣求浄土^{けが いと}」(この穢れた世を厭い、極楽浄土に往生することを願うこと)のための念仏を説き、当時の人々に浄土信仰を広めた人物である。

問 3 22 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- ア 正 吉田兼好^{よしだ けんこう} (兼好法師) は鎌倉時代から南北朝時代にかけての随筆家・歌人。彼は著書『徒然草^{つれづれぐさ}』の中で、仏教の無常観をもとに、この世の地位や名誉に執着することの愚かさや、無常だからこそ人生を真剣に生きる心掛けの大切さ、また移ろいゆく自然のはかない美しさを愛でる心などを説いている。
- イ 正 世阿弥^{ぜ あ み}の著書である『風姿花伝^{ふうし かでん}』では、能の命を「花」とよび、花は季節ごとに四季折々のものを咲かせるその珍しさに面白さがあるように、役者はその時々に応じた演技をして観客に新鮮な感動を与えるべきだと説いている。また、彼は能の美的価値は幽玄^{ゆうげん}にあると主張し、それは優美を意味した。
- ウ 誤 「わび」についての説明が不適。わびとは、華麗・優艶と対をなす概念であり、不足の状態の中に生み出す、簡素・枯淡・閑寂で趣のあることを意味する。茶の湯が流行した安土桃山時代、わびは茶の湯の美を表すものとなった。

以上より、アが正、イが正、ウが誤となる②が正解である。

問 4 23 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 正 著書『国意考^{こくいこう}』の中で、賀茂真淵^{かもものまぶち}は儒教を非難して、日本古来の歌道の政治的価値を説いた。
- ② 誤 『都鄙問答^{とひもんだう}』は石田梅岩^{いしだ ばいがん}の著書。石田梅岩は江戸中期の人物で、心学^{しんがく}とよばれる庶民のための平易な生活哲学を説いた。
- ③ 誤 『万葉代匠記^{まんやうだいしやうき}』は契沖^{けいちゆう}の著書。契沖は江戸中期の人物で、国学の先駆者。のちにその研究が賀茂真淵や本居宣長^{もとのおりのなが}へつながっていく。
- ④ 誤 『自然真営道^{しぜんしんえいどう}』は安藤昌益^{あんどうしやうえき}の著書。安藤昌益は江戸中期の医者・思想家であり、封建制度を批判して万人直耕^{ばんにんちっこう}にもとづく自然世を理想とした。

問 5 24 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

二宮尊徳^{にのみやそんとく}は江戸末期の農政家であり、農業は日照など自然の恵みである天道と、人間の努力である人道によって成り立つとし、自分が生きているのは自然や先祖のおかげであるためその恩に報いるべきだと考えた。そのた

めの方法が**分度**（自らの経済力に応じた生活設計）と**推譲**^{すいじょう}（儉約して生まれた余裕を他人に譲ったり、将来のために蓄えたりすること）である。

- ① 誤 「天地の恩ではなく」が不適。二宮尊徳は自然の恩も自覚すべきと考えている。
- ② 正 **分度**と**推譲**の考え方が示された文章である。
- ③ 誤 二宮尊徳は「雑草を抜き取る」ことも人間の努力（＝**人道**）であり、農業に不可欠だと考えている。よって、雑草まで尊重すべきだとは考えていない。
- ④ 誤 欲望を抑制することが重要なのであって、「常に自らの願望を満たすように生きる」ことは唱えていない。

問 6 **25** 正解は⑥

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ア **鈴木正三**^{すずき しょうざん}についての説明。彼は、従来の仏教の隠遁的傾向^{いんとん}に反対し、自らの職分を果たすことは仏行に等しいとする職分仏行説を主張するとともに、禅と念仏を合わせて行う独自の修行を実践した。
- イ **熊沢蕃山**^{くまざわばんざん}についての説明。彼は**中江藤樹**^{なかえ とうじゅ}の教えである**時・処・位**を引き継ぎ、儒学の礼法を普遍的・恒常的なものではなく、それぞれの場所や状況において適用されるものであるとした。また、徹底した森林保全主義者であった蕃山は、岡山藩で**治山治水**に努めた。
- ウ **石田梅岩**についての説明。彼は、営利の追求を賤しいものとする考え方から商人蔑視の風潮が強かった時代に、商業行為の正当性を訴え、商人も武士と同様に天下を治めることに貢献していると説いた。また、彼は町人が守るべき道徳として**正直**と**儉約**を説いた。正直とは、利己心や隠しだてなく、借りたものを返し、貸したものを受け取り、正当な方法で利益を得ることであり、儉約とは、単なる物惜しみではなく、天下の富を無駄にしないことである。

以上より、アが鈴木正三、イが熊沢蕃山、ウが石田梅岩となる⑥が正解である。

問 7 **26** 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 民俗学を創始したのは**柳田国男**^{やなぎ たくに お}である。柳田国男は無名の**常民**^{じょうみん}を研究対象として民俗学を確立した。
- ② 正 **南方熊楠**^{みなかたかくまぐす}は明治から昭和前期の生物学・民俗学者で、神社合祀令^{ごうし}が出されたときには環境保護の観点と宗教信仰の観点いずれからもこれを批判した。
- ③ 誤 選択肢は**折口信夫**^{おりぐちのぶ}に関する文章。彼は日本の神の原型を「**まれびと**」と捉えた。
- ④ 誤 **足尾銅山鉍毒事件**の際に反対運動を行ったのは、自由民権運動にも参加していた**田中正造**^{た なかしやうぞう}である。

問 8 **27** 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 文章中において、寒さを感じるときに人々が孤独を感じるとは記されていない。また和辻は、人間が^{あいだ}間柄的存在である自身を見だし、形成する働きをもつ自然を風土と名づけており、彼の指す風土とは寒さだけでなく、土地の気候・地形・景観などの総称である。よって、問題文中の「自らの身を犠牲にして」という部分は不適。
- ② 誤 文章中では人間が寒さを感じるときにとる対処法が記されている。よって、問題文中の対抗する手段をもたないとする部分は不適。また、和辻の思想において、人間が自然に対して忍従的かつ受容的な存在であることを了解するとは述べられていない。
- ③ 誤 和辻は自身の思想において、人間は、自然とのかかわりを通じて自身が人と人との関係（間柄）においてのみ人間でありうる間柄的存在であることを自覚し、形成するとしている。よって、問題文中の、自然を客観的に捉えることを学ぶという部分は不適。
- ④ 正 前半部分は本文中の「子供に着物を着せ、老人を火のそばへ押しやる」の部分に合致する。また、後半部分は本文中の「我々はこれらのいわゆる『自然の暴威』とのかかわりにおいてまず迅速にそれを防ぐ共同の手段に入り込んで行く」に合致するため正しい。

問 9 **28** 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 誤 環境破壊をもたらしたのが「伝統的な自然観」であるとの記述は見られない。むしろ、明治以降に移入された近代科学がもたらした自然観が原因であると読み取れる。
- ② 誤 日本における自然観では「自然を何らかの法則によって捉える」営みはみられない。また、現在の自然観は見直しの対象として提案されており、広く普及させることは目指されていない。
- ③ 正 近代的自然観に問題があることを示唆する文章の趣旨に沿っている。
- ④ 誤 自国の文化を批判することを通じて自然観が形成されたということを、文章中から読み取ることができない。

(有田瑞生, 小倉聡史)

2014 年度 センター試験 本試験 倫理

第 4 問 西洋の近代思想・芸術活動における想像力

出題範囲	ルネサンス, トマス・モア, パスカル, カント, 社会主義, 西洋近現代思想
難易度	★★★★☆
所要時間	14 分
傾向と対策	ルネサンス期から近代における西洋の思想を中心に出题され, 特に思想家たちの著書に関する問題が多くみられた。著書の内容に関する設問では, ただ単語を暗記するだけでは答えられない場合があるので, 普段勉強する際に理解を深めるように心がけよう。

問 1 29 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

- ① 誤 **工作人**とはフランスの思想家**ベルクソン**が名づけた**ホモ＝ファーベル**の訳語で, 人間は道具を利用して自然に働きかけ, 環境をつくり変えることで進化してきたとする人間像である。よってルネサンス期の理想の人間像ではない。
- ② 誤 諸子百家の一人である**荘子**が提唱した人間の理想像。彼は, 何の煩いもなく安らかに生きる境地である**逍遥遊**を理想とし, 自由な境地に生きる人間の理想像を**真人**とよんだ。
- ③ 正 ルネサンス期には人間性が尊重され, 芸術・技術・科学などすべての分野に精通した万能の天才が理想とされた。
- ④ 誤 19 世紀後半のドイツの哲学者, **ニーチェ**の理想像。彼はキリスト教の伝統的な価値観が崩壊する時代において, 今までの人間や自己自身を超えて力強く成長する主体的人間像を**超人**とよんだ。

問 2 30 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 誤 **アダム＝スミス**について述べた文章。アダム＝スミスは各人の自由な利益追求が生産力を高め, 社会全体の富を増大させるという自由放任主義を提唱し, 国家による経済への干渉を否定した。
- ② 誤 **マキアヴェリ**について述べた文章。マキアヴェリはルネサンス期イタリアの政治家であり, 著書『君主論』の中で, 国家の統治という目的のためには, 君主は暴力や裏切りなどの反道徳的な手段をも用いることが許されるとした。
- ③ 正 **トマス＝モア**はルネサンス期の人文主義者であり, 羊毛増産を目的として当時行われていた農民を農地から追い出す**囲い込み運動**を批判し, 私有財産制度のない平等な理想社会として**ユートピア**を構想した。

- ④ 誤 **ホッブズ**について述べた文章。ホッブズは、自然状態では人々が無制限に自己保存を追求するために、「万人の万人に対する戦い」という暴力的な状態に陥るため、相互の合意のもとに権力を国家に譲渡するべきだと主張した。なお、この選択肢中の「怪物」は**リヴァイアサン**のことを指している。

問 3 **31** 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 誤 **デカルト**の思想。デカルトは、自らの自由な意思によって外部の影響から生まれた情念を制御し、最善と判断したことを実現しようとする意志のことを**高邁^{こうまい}の精神**とよんだ。
- ② 正 **パスカル**の思想。彼は人間を**考える葦^{あし}**と称し、人間の尊厳は思考にあるとした。また彼は、理性の論理に従い、推理と論証によって思考する能力である**幾何学的精神**と、日常生活にかかわる**数多^{あまた}の原理**の全体を見渡し、迅速に、その場にふさわしい判断を導く知性の能力である**繊細の精神**を提唱した。
- ③ 誤 **ベーコン**の思想。彼は、個々の具体的事実から一般的な法則を導く**帰納法**にもとづいた**経験論**を提唱し、事実を正しく観察するためには、正しい認識の妨げとなる偏見や先入観を排除しなくてはならないとした。また、ベーコンは「**知は力なり**」と説き、自然の法則を知識として把握することによって、自然を支配する力を得られるとした。
- ④ 誤 **ピコ・デラ・ミランダ**の思想。彼は、中世の宗教的束縛から解放されたルネサンス期において、人間が自らの**自由意思**で自分自身を形成していくところに人間の尊厳の根拠があるとした。

問 4 **32** 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- a カントは自然法則と同様に普遍性をもつものとして道徳法則を重要視した。また、「私の上なる星空と、私の内なる**道徳法則**」という言葉は、『**実践理性批判**』の一節として有名。
- b カントの著書は『**判断力批判**』である。彼は悟性と理性を結びつけるものとしての判断力に着目し、カント批判哲学を体系づけた。なお、『弁証法的理性批判』は**サルトル**の著書。
- 以上より、a が**道徳法則**、b が**判断力批判**となる④が正解である。

問 5 **33** 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ゲーテは18～19世紀にドイツで活躍した詩人・文学者で、『若きウエルテルの悩み』『ファウスト』といった著作で知られる。ただ、本問ではゲーテについて知らなくても、設問をしっかりと読めば解くことができる。
- ① 誤 「科学的な視点」についてはゲーテの文章中で述べられてはいない。

- ② 誤 「自然のあり方に反するもの」についてもゲーテの文章中で述べられていない。
- ③ 誤 ゲーテは動物と植物の区別や、それらの関係について述べてはいない。
- ④ 正 ゲーテの文章の趣旨と一致する。

問 6 34 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 正 唯物史観についての説明。マルクスとエンゲルスは、社会の土台をなすものはその社会の生産様式であるとし、それを下部構造とよんだ。これに対し、芸術・道徳といった文化や政治制度はその土台によって制約される上部構造だと見なし、下部構造が変化すればそれに合わせて上部構造も変化すると主張した。
- ② 誤 ベンサム思想。彼は、功利主義の立場から、社会は諸個人の総和であるため、諸個人の幸福の総計が社会全体の幸福になると、最大多数の最大幸福を理想とした。
- ③ 誤 ヘーゲルの思想。彼は、人間の主観的精神がさまざまな対立を克服して自由な主體的意識を獲得した段階を絶対精神とよび、絶対精神はまず心や意識といった個人の主観的精神になって現れ、次に法律や道徳、人倫といった客観的な社会関係としての客観的精神になり、最後に主観的精神と客観的精神を統一する絶対精神となって自己へ戻ってくるとした。したがって、労働者や資本家の意識や、その両者の関係は絶対精神が客観的に実現されたものではない。
- ④ 誤 空想的社会主義者とよばれるサン・シモンやフーリエ、オーウェンの思想。彼らは、産業革命後の資本家による富の搾取や労働者の過酷な労働状況を激しく批判し、労働者が富を搾取されることのない理想社会を実現しようとした。

問 7 35 正解は⑤

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ア ルソーの考え方である。ルソーはフランスの啓蒙思想家で、社会契約説を唱えた人物。彼は自然状態では人間は平穏に暮らしていたが、文明社会に移行することで不正で悲惨な政治状況が生まれたと主張した。
 - イ キルケゴールの考え方である。キルケゴールはデンマークの思想家で、産業革命後に大衆の中に埋没した人々を批判し、神の前でただ1人向き合って生きる「単独者」に真の実存の在り方を見いだした。
 - ウ デューイの考え方である。デューイはアメリカの哲学者で、プラグマティズムを大成した。また、社会の問題を解決する創造的知性を育むための問題解決学習が民主主義を実現するうえで重要だと説いた。選択肢中に出てくるハーバーマスはドイツの哲学者で、社会のすべての構成員による討議を行い、相互理解することで、社会規範（ルール）をつくるというコミュニケーション的合理性を唱えた。
- 以上より、アがルソー、イがキルケゴール、ウがデューイとなる⑤が正解である。

問 8 36 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

- a サルトルの著書は『^{おうと}嘔吐』である。『第二の性』はサルトルの妻であるボーヴォワールの著書であり、「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」という女性解放の思想が主張されている。
- b サルトルは**実存主義**の立場から、人間はまずこの世に存在（実存）し、そのあとから自らの自由な行為によって自己が何であるか（本質）を定義していく**投企的存在**であるとし、「**実存は本質に先立つ**」と述べた。
- c 小説家・劇作家であった**カミュ**は、自身の作品において、不合理を生きる人間の実存を**不条理**として描いた。
- 以上より、a が嘔吐、b が**本質に先立つ実存**、c が**不条理**となる①が正解である。

問 9 37 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

- ① 誤 想像力は社会的な問題を解決することには貢献できないとされているが、本文では社会的実践の例が示されているため、不適。
- ② 正 本文の内容と合致する。
- ③ 誤 この選択肢は想像力に対して批判的に述べた文章であるが、本文中では想像力の働きが思想家たちによってさまざまな事象と結びつけられており、想像力を批判してはいない。よって、③は本文とは一致しないため不適。
- ④ 誤 本文では、「理想の世界のなかで生を営む」ための手段として想像力を捉えてはいないため不適。

(有田瑞生，小倉聡史)